



大学院だより

大学院修了式

2025年3月13日、大学院修了式が、血脇記念ホールにて学部130期生の卒業証書授与式と合同で行われました。修了者の1名ずつの呼名により入場し、39名の修了者の代表として歯周病講座の宮田直樹大学院生に齋藤淳大学院研究科長から修了証が授与されました。その後、新館8階に移動し、一人ひとりに修了証が授与されました。また、大学院研究科長賞が歯周病講座の宮田直樹大学院生に齋藤淳大学院研究科長から授与され、同窓会長賞が歯周病講座の宮田直樹大学院生とパーシャルデンチャー補綴学講座の伊東紘世大学院生に富山雅史同窓会長から、授与されました。



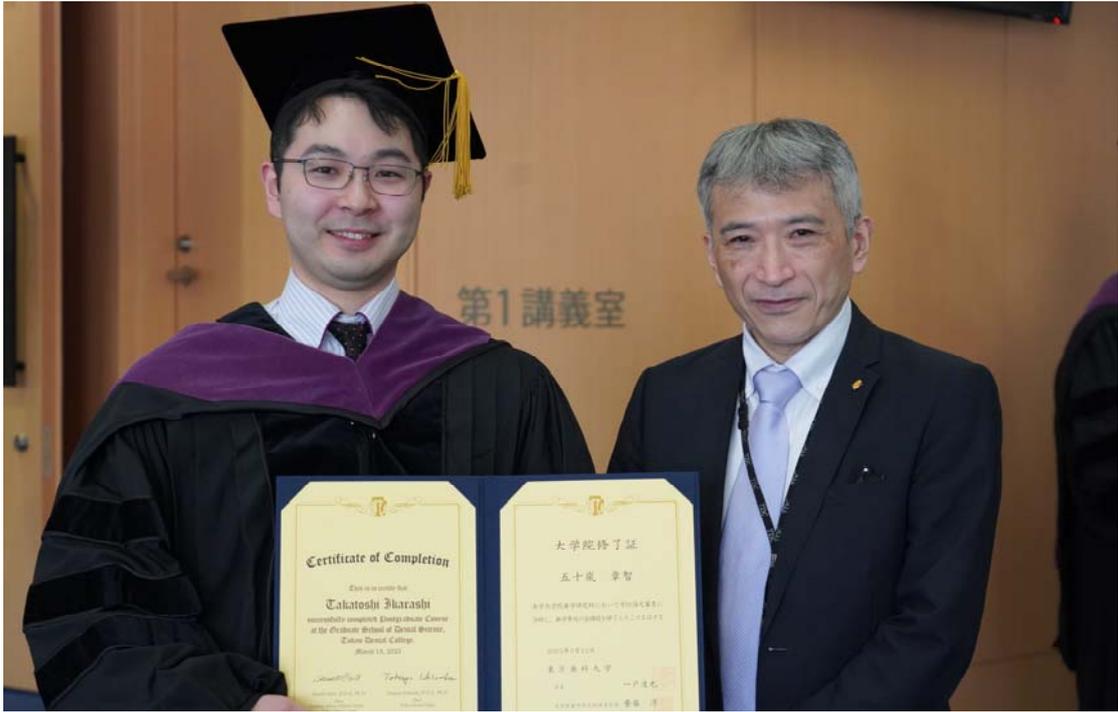
2025年3月13日大学院修了式後、修了者一同



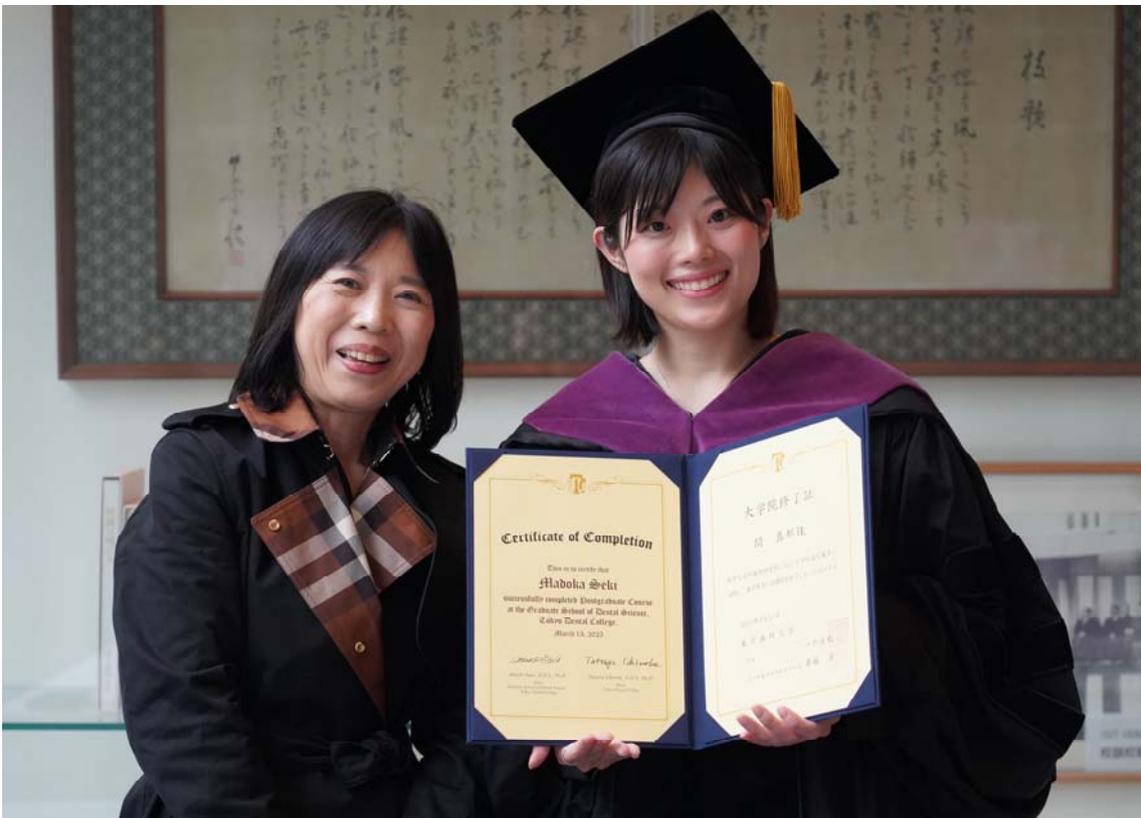
修了式に出席した修了者たちと中央で迎える齋藤淳大学院研究科長



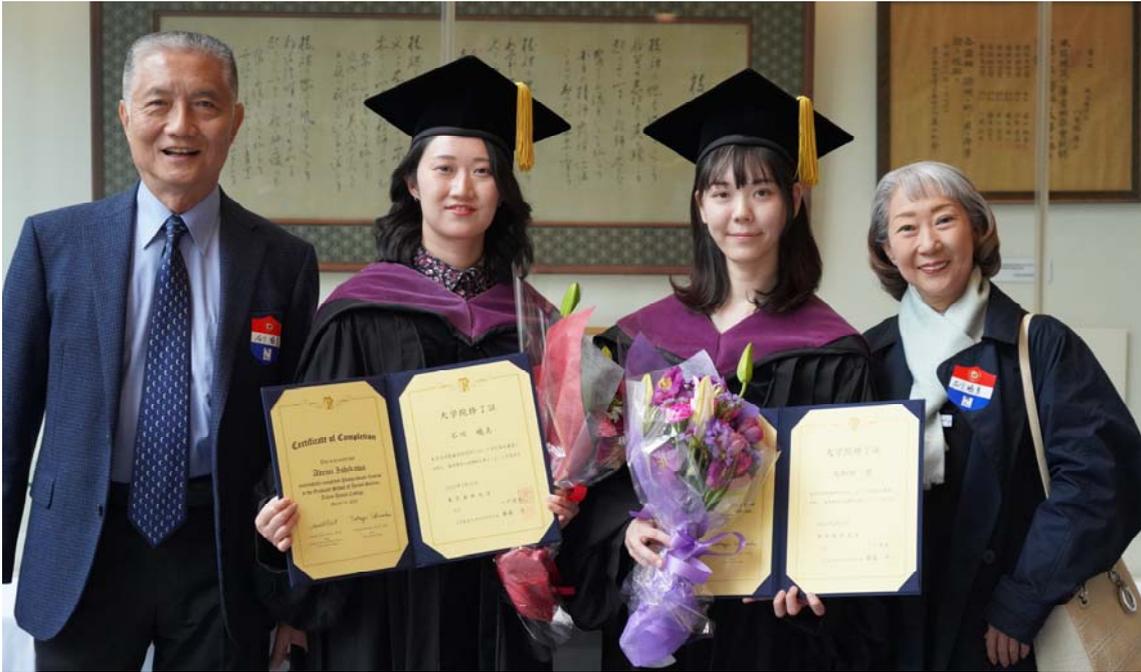
齋藤淳大学院研究科長と伊東紘世学生会長の最後の挨拶



恩師とともに、後輩とともに



お世話になりました。お父様、お母様と



お世話になりました。お父様、お母様と

大学院研究科長賞

本年の大学院研究科長賞は、歯周病講座の宮田直樹大学院生が受賞し、齋藤淳大学院研究科長から記念メダルが授与されました。

- ・歯周病講座の宮田直樹大学院生受賞テーマ

Combined Effects of Fibroblast Growth Factor-2 and Carbonate Apatite Granules on Periodontal Healing: An In Vivo and In Vitro Study.

同窓会長賞

毎年恒例の同窓会長は、歯周病講座の宮田直樹大学院生とパーシャルデンチャー補綴学講座の伊東紘世大学院生が受賞し、富山雅史同窓会長から、賞状と金一封が授与されました。

- ・宮田直樹 大学院生の受賞テーマ 同上
- ・伊東紘世 大学院生の受賞テーマ

Evaluation of CAD/CAM Methods for Fabrication of Removable Partial Denture Frameworks from Commercially Pure Titanium.

大学院修了にあたって

歯周病学講座 宮田 直樹

大学院での日々は、長くもあり短くもあり、充実した4年間となりました。大学院入学前は、研究とはどういうものであるか全く想像できませんでした。そんな私が様々な方々の御指導のもと、無事博士課程を修了できたことを大変嬉しく思います。

私は歯周病学講座で脈々と続いている歯周組織再生のメカニズム解明を目指した病理組織系の基礎研究に取り組みました。具体的には、塩基性線維芽細胞増殖因子 (FGF-2) と骨補填材 (炭酸アパタイト) の併用が歯周組織治癒に及ぼす影響を *in vivo* および *in vitro* にて検討しました。学部時代は与えられた選択肢から適切な答えを選ぶことをしていましたが、大学院生になり無数にある選択肢の中から自分で考え答えを見つけるていくことの難しさを学びました。なぜその事象が起きているのか、と考える行為は研

究だけではなく臨床においても大切なことだと身をもって感じることができました。齋藤教授はじめ、様々な先生方の御指導もあり、研究成果は国際誌 Biomedicines に掲載されました。大学院在学中は国内だけでなく国際学会に現地参加させていただき、国内外の研究者と様々なディスカッションを行い、自らの研究や発表に大きな糧となりました。現在は更に発展させた研究課題で日々研究に取り組んでおりますので、今後も国際学会へ参加し、次の論文も是非、出したいと思っております。

また、この4年間、研究以外にも臨床をはじめ、ティーチングアシスタントやリサーチアシスタントなどにも積極的に取り組みました。そのような活動を評価していただき、大変名誉な大学院研究科長賞ならびに同窓会長賞を受賞することができました。大学院在籍中は休日もほとんどないくらい、研究に打ち込みました。そのようなことができたのは、御指導いただいた齋藤教授、先輩方、共に支えあった同期、実験の準備や支援をいただいた後輩、そして様々なサポートをしてくれた家族など多くの方々のお陰であると思っています。また、研究をスムーズに行えるよう環境を整えてくださった口腔科学研究センター、動物実験施設の方々にも感謝申し上げます。

まだまだ、研究者・歯科医師として未熟ではありますが、伝統ある東京歯科大学で大学院を修了したことを誇りとし、日々努力していこうと決意を新たにしております。最後になりますが、これまで御指導くださいました齋藤教授をはじめとする諸先生方ならびに職員の皆様に、心から御礼申し上げます。



宮田直樹大学院生(左)と齋藤淳大学院研究科長(右)



宮田直樹大学院生(左)と富山雅史同窓会長(右)

大学院修了にあたって

パーシャルデンチャー補綴学講座

伊東 紘世

大学院での4年間を振り返ると、すべての始まりは大学1年生のときに参加した Elective Study での出会いにあったと感じます。台湾を訪れる機会をいただき、不安と緊張を抱えていた中、引率の先生として同行されていたのが山下秀一郎先生でした。現地での何気ない会話や学生への温かい対応、歯科医療に向き合う真摯な姿勢に強く惹かれ、「この先生のもとで学びたい」と自然に思うようになりました。その出会いがきっかけとなり、学年が進むにつれて進路として大学院も意識するようになり、このご縁でパーシャルデンチャー補綴学講座に入局することを決めました。

また、田坂彰規先生には、研究面での姿勢や考え方をはじめ、学会発表前の夜遅くまでの練習にも丁寧に付き合ってくださいました。どんなときも親身に向き合ってくださいました先生のご指導があったからこそ、今日の自分があると実感しています。

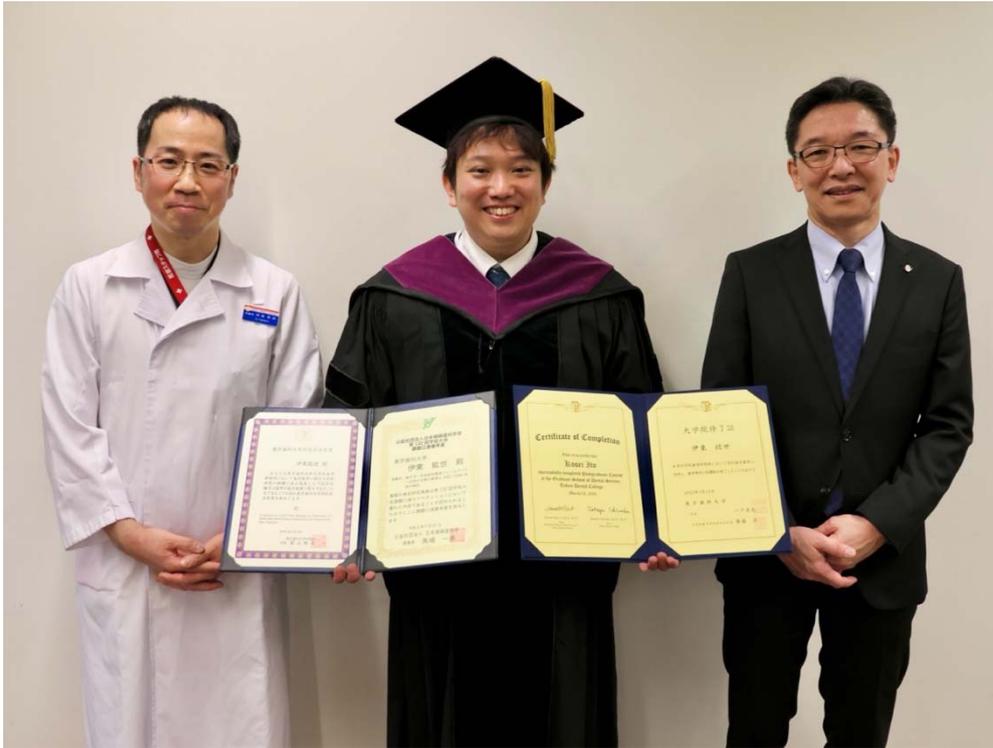
私は「Evaluation of CAD/CAM Methods for Fabrication of Removable Partial Denture Frameworks from Commercially Pure Titanium」というテーマのもと、純チタン製局部床義歯フレームワークの製作方法について研究しました。CAD/CAM 技術を応用し、①3D プリントパターンを純チタンで鋳造、②切削パターンを純チタンで鋳造、③純チタンディスクの切削、④純チタンパウダーの積層造形の4手法を比較しました。形状精確さ、表面粗さ、内部気孔、金属結晶構造などをマクロ・ミクロの視点で評価しました。これらの成果は東京歯科大学初となる日本補綴歯科学会の課題口演優秀賞、20年ぶりの日本歯科理工学会の研究奨励賞を受賞することができました。大学院の研究におけるこうした国内での評価をいただけたことは私にとって大きな励みとなりました。

大学院生最後の1年には、学生会の会長として、大学院共用室の環境整備にまじりました。多くの方に快適に使用していただけるように、様々な先生にヒアリングを行い、その結果をもとに大学院共用室利用規程の作成を行いました。また、第16回日本口腔検査学会では実行委員長として会場準備から進行管理まで運営全体に携わりました。学会運営の難しさを痛感する一方で、講座の先生方と協力して成功へ導けたことは、大きな達成感となりました。研究や診療だけでなく、こうした多様な仕事を任せていただけたことは、視野を広げる大変貴重で、何より楽しい経験でした。

ティーチングアシスタントとしては、4年生の臨床基礎実習や5年生の臨床実習はもちろんです。義歯製作の工程を解説する教育動画の制作にも取り組み、人に伝える難しさと向き合いながら、自らの理解を深める機会となりました。

こうした活動を評価いただき、同窓会長賞という名誉ある賞も頂戴することができました。これらの成果は、支えてくださった先輩方、同期や後輩のおかげであると心から感謝しています。

大学院で培った補綴学的知識と科学的な視点は、今後の臨床の現場でも必ず生きてくると信じています。今後も誠実に歯科医療と向き合い、社会に貢献してまいります。最後になりましたが、ご指導を賜りました山下秀一郎先生、田坂彰規先生、小林裕先生、講座の諸先生方には心より厚く御礼申し上げます。また研究活動を支えてくださった井出理事長、一戸学長、富山同窓会会長をはじめ、研究環境の整備にご尽力いただいた皆様にも、深く感謝申し上げます。さらに、在学中温かくご支援くださいました齋藤大学院研究科長、澁川教務部長、福田学生部長、大学院事務室の堂地様をはじめ、職員の皆様に対しましても、心より御礼申し上げます。



伊東紘世大学院生(中)と山下秀一郎教授(右)、田坂彰規教授(左)

学位受領者一覧 (2024 年度)

	学位記番号	氏名	所属	
1	2 4 9 3	小野 魁星	法歯学・法人類学	甲 1649 号
2	2 5 0 3	下山 圭太	歯科矯正	甲 1650 号
3	2 5 0 4	宮田 直樹	歯周病	甲 1651 号
4	2 5 0 5	谷口修一郎	解剖	甲 1652 号
5	2 5 0 6	杉山 雄紀	解剖	甲 1653 号
6	2 5 0 7	酒井 菜緒	歯科矯正	甲 1654 号
7	2 5 0 8	江澤 明穂	オーラル・病院歯科	甲 1655 号
8	2 5 0 9	伊東 紘世	パーシャルデンチャ ー	甲 1656 号
9	2 5 1 0	山本 楓華	歯科矯正	甲 1657 号

10	2 5 1 1	石川 曉美	クラウンブリッジ	甲 1658 号
11	2 5 1 2	関 真都佳	歯科麻酔	甲 1659 号
12	2 5 1 3	山下 悠	歯科矯正	甲 1660 号
13	2 5 1 4	奥村 知里	口腔健康科学	甲 1661 号
14	2 5 1 5	三宅 麗	歯科矯正	甲 1662 号
15	2 5 1 6	田中 希	老年歯科	甲 1663 号
16	2 5 1 7	姜 裕奈	歯科麻酔	甲 1664 号
17	2 5 1 8	大和田 碧	クラウンブリッジ	甲 1665 号
18	2 5 1 9	高階 友博	微生物学	甲 1666 号
19	2 5 2 0	栗原 智尋	口腔病態外科	甲 1667 号
20	2 5 2 1	左 原美	歯科矯正	甲 1668 号
21	2 5 2 2	平井 研吾	小児歯科	甲 1669 号
22	2 5 2 3	中島 克真	歯内療法	甲 1670 号
23	2 5 2 4	明 由理亜	口腔腫瘍外科	甲 1671 号
24	2 5 2 5	倉持 仁	歯内療法	甲 1672 号
25	2 5 2 6	矢島圭奈子	歯科麻酔	甲 1673 号
26	2 5 2 7	南 亜莉沙	口腔腫瘍外科	甲 1674 号
27	2 5 2 8	田上 聖章	歯科矯正	甲 1675 号
28	2 5 2 9	清水 学	微生物学	甲 1676 号
29	2 5 3 0	番場 桃子	歯内療法	甲 1677 号
30	2 5 3 1	宇田川 琢	法歯学・法人類学	甲 1678 号
31	2 5 3 2	池谷 侑	口腔顎顔面外科	甲 1679 号
32	2 5 3 3	五十嵐章智	保存修復学	甲 1680 号
33	2 5 3 4	森野 響子	歯科矯正	甲 1681 号
34	2 5 3 5	山元 宏允	口腔健康科学	甲 1682 号
35	2 5 3 6	渡辺麻衣子	小児歯科	甲 1683 号
36	2 5 3 7	棟方 里花	歯科理工学	甲 1684 号
37	2 5 3 8	後藤 千勝	歯科矯正	甲 1685 号
38	2 5 3 9	大田 慧	口腔インプラント	甲 1686 号
39	2 5 4 0	石口 恭子	歯科放射線	甲 1687 号

編集後記



本年の修了者たちは、新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、多くの行事がオンライン開催となり、御殿場での学外研修も行けませんでした。研究開始や継続に困難もあったことでしょう。この特殊な環境で大学院生活を修了したことを誇りにして今後の歯科医師人生を頑張っていたいただきたいと思います。

(福田謙一 記)